

1. 単元名 「未来の災害に備えよう～2つの石碑から考える減災教育」

2. 単元の目標

○石碑の碑文などの関係資料の読み取りや保存会への聞き取り，防災関連施設の見学などを通し，過去に発生した津波災害の歴史や教訓と次の災害で避難するために必要なこと理解することができる。

(知識及び技能)

○石碑に込められた江戸時代の人々と墨入れを続ける保存会の方々の思い，課題を踏まえ，次の災害で避難するために必要な家庭での決まり事を考えることができる。(思考力・判断力・表現力等)

○伝承や信頼関係を前提とした避難行動の大切さに気付き，次の災害で避難するために必要な備えの在り方の模索，日常生活の中での活用をすることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では，大阪府内に現存する，津波災害を扱った2つの自然災害伝承碑を取り上げる。江戸時代後期の1854(嘉永7)年11月5日に発生した安政南海地震では大坂にも津波が来襲し，多くの人々が犠牲となった。これを現在に伝えるのが「大地震両川口津浪記」(大阪市)と「擁護壘」(堺市)である。「擁護壘」では，安政南海地震より147年前の宝永4(1707)年10月4日に発生した宝永地震で来襲した津波で多くの方が犠牲となった教訓が伝えられたため，安政南海地震ではけが人が1人もいなかったと記載されている。しかし，「大地震両川口津浪記」では，宝永地震の教訓を伝え聞く人がほとんどいなかったため，安政南海地震でも多数の犠牲が出たことが記載されている。石碑は，「心ある人は，碑文が詠みやすいように時々墨を入れて伝えていってほしい。」という言葉で締めくくられており，江戸時代の人々の思いを引き継いだ保存会を中心に，現在も墨入れによる伝承活動が続けられている。2つの石碑を通じて，大坂に津波が来襲した歴史や伝承の大切さとそこに込められた人々の思いを知ること，減災に対する意識向上が期待できる。さらに，津波高潮ステーションでの南海トラフ巨大地震についての学習や東日本大震災の体験談を通じて，今後発生が危惧される南海トラフ巨大地震を「自分ごと」としてとらえ，備える活動へと繋げたい。

一方，課題も見受けられる。2022年に南海トラフ巨大地震の今後40年以内の発生確率が90%程度へと引き上げられたが，上記の2つの石碑や安政南海地震について，社会科副読本での記載はなかった。さらに，保存会の高齢化や都市開発などの理由により，墨入れに参加する子どもや若者が減少している現状がある。

(2) 児童観

児童は，2学期の社会科「自然災害から命とくらしを守る」にて，大阪府で過去に大きな被害をもたらした台風に伴う高潮被害を起点に，災害に対する備えについて学習をした。しかし，副読本に安政南海地

震での津波や上記の石碑の記載はなく、「昔、大阪府にも津波が来襲した」という事実を既知する児童はほとんどいないように思われる。社会科で学習した過去の高潮被害と同様、今後発生が危惧される災害に備えるためには、過去の津波災害について学習することが重要であると考え。石碑を起点に、過去に発生した災害の体験者や保存会の人々の言葉・思いなどを通じて「自分ごと」としてとらえ、次の災害に備えることを目指すためにも本実践を取り上げる意義は大きいと考える。

(3) 指導観

本単元では、まず、2つの石碑を起点に、①江戸時代に大坂へ津波が来襲した歴史、②伝承がなかったことで2度目の津波でも多くが犠牲となった教訓を現在に伝える「墨入れ」について認識させたい。その後、保存会への聞き取りや新聞記事の読み取りから、墨入れには、「次の津波で被害が出たら先祖に申し訳ない」「また来る災害の備えと教訓を忘れないため墨入れは続ける」という思いが込められていることに気付かせ、「自分たちも次の津波災害に向けて備える必要がある」ことを認識させたい。そして、今後発生が危惧される南海トラフ巨大地震の学習や東日本大震災の体験談なども踏まえた上で、次の災害で避難する際に必要なことを考えさせたい。なお、本単元で「石碑について発表をしたい」、「墨入れをしたい」などの声が児童からあった場合は、国語科「調べたことをほうこくしよう」を活用、実施したい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

- ・ 有限性…江戸時代から途切れることなく続いてきた墨入れによる伝承は、保存会の方々の思いがあるが故であり、様々な要因で途絶えてしまうことが考えられる。
- ・ 責任性…石碑に教訓と願いを刻んだ江戸時代の人々と墨入れを続ける保存会の人々の思い。これらの伝承や思いを踏まえ、次の災害発生時に児童自身で避難すること。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

・ クリティカルシンキング

碑文にある江戸時代の人々の教訓や保存会の人々の思いを契機に、自身の日常生活や避難時に重要なことが何か、について考え直す。

・ 未来像を予測して計画を立てる力

今後、発生が危惧される災害から避難するために必要な備えについて考える。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

・ 世代間の公正

保存会による墨入れによって伝承されてきた江戸時代の人々の思いと教訓は、私たちが来たる災害から避難するためにも重要な教えである。

・ 幸福感を大切に

「墨入れをして伝えてほしい」という江戸時代の人々の思い=同じことをくり返すことなく、次の災害で津波から避難をすること。

・ 達成が期待される SDGs

【目標 4 質の高い教育をみんなに】

家庭で避難時の決まり事を話し合う活動や成果物の発表を通じて児童から広がる減災の意識や知識。

【目標 11 住み続けられるまちづくり】

2つの自然災害伝承碑を起点とした、次の災害での避難を目指す減災教育。

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>①石碑を起点に、大坂に津波が来襲した歴史や伝承の大切さを理解している。</p> <p>②保存会への聞き取りや新聞記事から、墨入れと伝承に込められた思いを理解している。</p> <p>③津波災害や避難行動のポイントを理解している。</p>	<p>①石碑に込められた江戸時代の人々や墨入れを続ける保存会の思い、課題を踏まえ、次の災害に対して必要なことを考えることができている。</p> <p>②学習内容を踏まえ、災害から生き延びるために必要な事を考え、表現・共有している。</p>	<p>①単元を通じて、資料の読み取りや整理、聞き取り、まとめる作業を意欲的に行っている。</p> <p>②伝承や信頼関係を前提とした避難行動の大切さに気付き、次の災害から生き延びるために必要な備えの在り方を模索しようとしている。</p>

5. 単元の展開（全16時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
みつめる	①自然災害伝承碑(地図記号)を導入に、大阪にも昔、津波が来襲していたことを理解する。	・地図記号クイズや地理院地図(ウェブ)の活用, 安政南海地震津波を描いた巨大怪物「高坊主」の絵の示提示などから、概要をつかませる。	【ウ①】
しらべる (3)	②2つの石碑に書かれた碑文の読み比べ、碑文に書かれた内容の違いについて調べる。 石碑に込められた江戸時代の教訓を「墨入れ」が現在に伝承していることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・碑文の現代語訳を提示し(墨入れをして後世に伝えよ。の一文は隠す), 違いを考えさせる。 ・伝承のなかった側では2回目の津波で多くの犠牲が出たことを理解させる。 ・墨入れの動画や写真を提示し, 筆を持った人々が石碑に何をしているのかを考えさせる。 	【ウ①】 【ア①】
	③保存会への聞き取りや新聞記事から、墨入れに込められた思いを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ○墨入れを続ける理由 ・次の津波で被害が出たら先祖に申し訳ない。石碑を広く伝え, 残していくのが我々の責任。 ・備えと教訓を忘れないため, 墨入れは続ける。 ○課題 ・高齢化などによる若者の参加減少。 ・近隣学校の子どもの伝承を伝える機会がない。 ・学校で石碑のことを扱い, 宣伝してほしい。 	【ア②】 【ウ①】
	④石碑や保存会の方々の思いが周知されているのか考える。	・墨入れには, 教訓を伝え, 次の災害で犠牲者を出したくないという保存会の方々の思いが込められていることに気付かせる。	【ア②】
江戸時代の人々が石碑にこめた教訓や増井さん・地域の方々の思いは私たちに伝わっているだろうか			

ふかめる (5)	⑤アンケート結果から、石碑が周知されていないことを共有し、何をすればよいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科「調べたことをほうこくしよう」で作成し、家庭で回答してもらったアンケートの結果を共有させる。 ・副読本の地図や既に学習した防災の単元に石碑や安政南海地震の記載がない点に気付かせる。 	【イ①】
	なぜ伝わっていないのだろうか？ どうすればよいだろうか？		
	※石碑関する発表などは上記の国語科で行う。		
ふかめる (5)	先人からの教訓だけで次の津波から逃げることはできるだろうか？		【イ①】
	⑥石碑の教訓だけで、南海トラフ巨大地震での津波から逃げるができるかを考える。	・江戸時代と現在の大阪の地図、大阪市の地盤沈下のデータを使用する。	
	⑦⑧⑨南海トラフ巨大地震や東日本大震災の津波と避難について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・津波高潮ステーションの見学（2時間） ・南海トラフ巨大地震から家族が避難する動画 ・東日本大震災を体験された方の体験談（1時間） 	【ア③】
ひろげる (7)	⑩津波高潮ステーションや東日本大震災の動画・体験談から、避難できた理由を共有する。	・2つの話の振り返りを通じ、家族間での事前の取り決めと信頼が生死を左右していたことに気付かせる。	【ア③】
	次の津波（災害）から逃げる（生きのびる）ために大切なことは何だろうか？		
	⑪⑫津波や南海トラフ地震の基礎知識について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの活用し、津波の速さや避難三原則、避難ビルのマークなどの知識を共有させる。 ・自助の重要性を示す資料、内閣府〈国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～〉を活用する。 	【ア③】 【ウ①】
	⑬家庭への避難宣言の内容を考え、宿題で家庭での避難ルールを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難時の自身の避難方法と帰宅後に家族家庭へ訴える際の思いを考えさせる。 ・宿題で家庭での決まり事を決めさせる。 	【イ②】 【ウ②】
	⑭家庭で決めたルールを全体共有し、災害時の避難についてのポイントを再確認する。	・参考文献として片田（2020）『人に寄り添う防災』を用いる。	【ア③】 【ウ②】
	⑮学校の避難訓練をより良くするために何が必要か考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での津波避難訓練を振り返りさせる。 ・「もしトイレで避難の必要性に気づいていない人がいたら？」、「掃除箱は固定されていないけどどうかな」など、問題提起のきっかけを提示する。 	【ア③】 【ウ②】
	⑯学校の避難訓練についての提言をする。		【ア③】 【イ②】 【ウ②】